

科目	生物基礎	学年	第1学年	開講	通年	必修	2単位
----	------	----	------	----	----	----	-----

教科書:「生物基礎」東京書籍

副教材:「ニューグローバル生物」東京書籍

1 学習の到達目標

・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

2 学習計画及び評価方法

- a 知識技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点					
							a	b	c			
前期	生物の特徴	生物の多様性と共通性	生物の多様性	・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき、地球上に多様な種がみられうのはなぜか考える。 ・生物と非生物の違いが何か考える。	4	中間	○	○	○			
			生物の共通性				○	○	○			
			細胞の特徴				○		○			
		生物とエネルギー	生体とATP	・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づく。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 呼吸・光合成による。			○	○				
			生体内の化学反応				○	○	○			
			呼吸と光合成				○		○			
	その遺は伝た子とらき	遺伝情報とそのはたらき	生物と遺伝	・親から受け継ぐものには遺伝するものとしめないものがあることに気づく。 ・DNAの形や構造にある規則性や特徴に気づく。 ・細胞分裂で、どの段階でDNAの量が倍になるのかなど。	6	中間	○					
			DNAの構造				○	○	○			
			DNAの複製と分配				○	○	○			
		遺伝情報とタンパク質	タンパク質	・肉の主成分はタンパク質だが、生物によって肉の特徴が異なることに気づく。 ・遺伝情報は、ATGCの4つの文字のみで表現されていることに気づく。			7	期末	○			
			DNAとタンパク質の合成						○	○	○	
			細胞分化と遺伝子						○		○	
ヒトの調節	体内環境と情報伝達	体内環境	・人の体温例から、気温の異なる環境下でも、体温が一定の範囲内に収まっていることに気づく。 ・無意識に体内環境が調節されていることに気づく。 ・情報伝達には特徴に合わせた様々な種類があることに気づく。 <small>血糖濃度の調節機構による体内環境の維持について</small>	9	期末	○						
		神経系による情報伝達				○			○	○		
		ホルモンによる情報伝達				○				○		
		血糖濃度の調節				○	○	○				
	前期 授業評価											
	後期	ヒトの調節	免疫のはたらき			免疫のしくみ	・細菌、菌類、線虫、ウイルスが原因となる病気を調べる。 ・予防接種について考える。 ・アレルギーについて考える。	10	中間	○	○	
免疫記憶				○	○	○						
免疫とさまざまな疾患				○		○						
生物の多様性と生態		植生と遷移	植生とその環境	・様々な環境に多様な植物が生育していることに気づく。 ・身近な土地の変遷から、植生が時間とともに変化することに気づく。 ・環境によって繊維の結果が異なることに気づく。	11	1	○			○	○	
			植生の遷移				○			○	○	
			遷移とバイオーム				○			○	○	
生態系と生物の多様性		生態系における生物の多様性	生態系における生物の多様性	・ある環境の中に様々な生物が存在していることに気づく。 ・生態系において生物どうしが関わり合っていることに気づく。 ・生態系のバランスには変化が起きることに気づく。 ・日々の生活と生態系の保全との関係に気づく。			2	期末	○	○	○	
			生態系における生物間の関係						○	○		
			生態系と攪乱						○	○	○	
			生態系の保全		○	○			○			
後期 授業評価												

3 評価の観点

生物学の基本的知識や概念を十分に理解できているか。

4 観点別評価

3観点	評価方法	評価基準
知識・技能	定期考查	極めて基本的な内容が理解/暗記できているかを数値化する。
思考・判断・表現	定期考查	教科書の章末問題程度の問題の解答力を数値化する。
主体的態度	小テスト・提出物・レポート等	課題やレポートなどの提出物、授業中の応答の巧拙を数値化する。